

2月18日 水のセミナー  
水素水と静電三法 その2

『静電三法』とは？

1958年発刊『静電三法』

檜崎皐月（ならさき さつき）が記した著書。  
次に訪れる時代の科学技術のあるべき姿を  
以下の三法を主軸に提唱している。

- 植物波農法
- 物質変性法
- 人体波健康法



カタカムナ

敗戦後の食糧難に、国から農業の生産性を上げるよう要請を受けた檜崎皐月氏は調査・実地試験を行うため全国を回った。

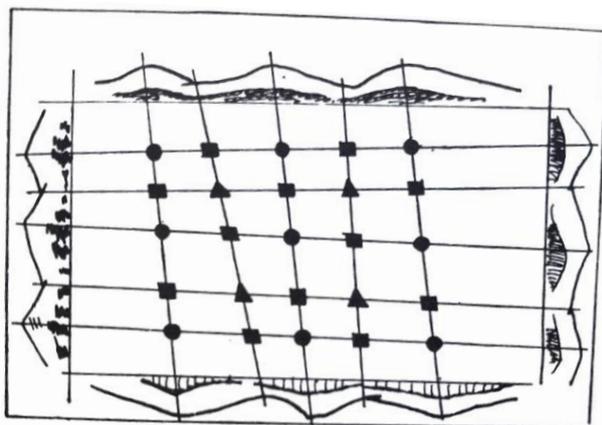
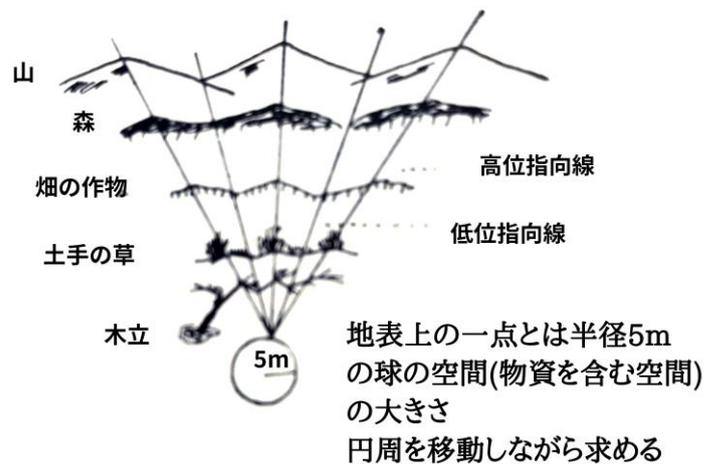
兵庫県六甲山にて電位を計る調査の中、地元の神社の宮司が来訪。  
「カタカムナ」の古文書を見せられてそれを教わり、写筆する。

カ（過去）、ム（未来）、ナ（現在）※諸説あり

相似象 環境物性学

5m範囲で移動しながら、  
遠く・真ん中・近くに見える景色が  
全て相似している地点がある。

生物系のもの（畑の作物等）も、  
自然界の本来あるべき姿のもの  
（山や森）も一緒になっている。



●優勢地点 ▲劣勢地点 ■普通地点

山は山の、谷は谷の線で結ぶ。

イヤシロチ（弥盛地）

- 山の線が交わったところ
- 何をやっても上手くいく場所

ケガレチ（気枯地）

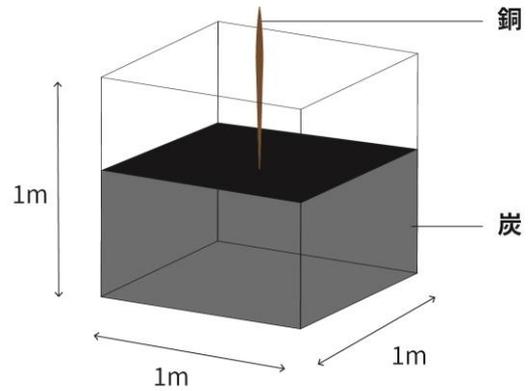
- 谷の線が交わったところ
- 上手くいかない場所（低電位）

普通のところ

- 山と谷の線が交わったところ

## 炭素埋設法

低電位（電気が流れにくい）の場を変える方法として「炭素埋設法」。  
炭を埋設することによって、微生物も植物もその上に暮らす人間も健康になる。



## 大地の電位の変化

炭素埋設前に接地抵抗計で計測

**300 Ω — 450 Ω**



炭素埋設してから計測

**50 Ω**



(最長の場合) 3か月後に計測

**10 Ω 以下**

## なぜ炭素なのか？

- 炭素には自由電子が1つある
- 炭を一定量埋設することで電子を補充
- 土壌を還元電位に誘導
- 地表と大気を誘電的に影響

炭素を入れることによって電気が流れやすくなり、ケガレチがイヤシロチに変わる。

### 水素水を飲むと 電気が流れやすくなる？

水素水、電子水や電解水などエネルギーが高い水を飲むと、脳から出る微弱電流が流れやすくなり、スムーズな生命活動ができるため健康になる。

## 突起棒施設術

建築物、樹木、鉄塔、電線などの交錯地

1. 交錯する地点に
2. 交錯する位置より高く
3. 突起棒を施設する

地表と大気に誘電的に影響する

建築物、樹木、鉄塔、電線などの交錯地は高いものがあるとそこから電位が下がっていってしまう。  
交錯地にそれよりも高い突起棒を立てることで電位が下がらないようにする。  
屋根の上に針金を立てるなど簡単なものでもよい。

## 還元と酸化のバランス

還元だけが良しではない 酸化とのバランスが重要

- 根は「還元電位」、茎葉の光合成は「酸化活動」
- 内臓は「還元電位」、エネルギー代謝は「酸化活動」

「還元＝良い 酸化＝悪い」ではない。どちらも大切でバランスが重要。  
この世の中のイオンは全て「プラスイオン」と「マイナスイオン」、必ず両方ある。  
植物も昼間は「光合成」、夜は「呼吸」両方する。  
どちらかに偏りすぎることが問題なので、バランスが重要。